

## 2. 上田地域

### 2-1 地域特性など

- 上田地域は長野県の東部に位置し、上田盆地内に主に市街地が形成されています。盆地以外にも北部の真田地域や千曲川支流の依田川、武石川、内村川などに沿って居住区が続いています。菅平高原など上田市の一部は豪雪地帯にも指定されています。
- 東側に隣接する佐久地域との流動が最も多くなっていますが、長野地域との流動も目立ちます。南西側では松本地域・諏訪地域と、北東側では群馬県と接していますが、これらとの流動も一定のものがあります。
- 圏域の中心地である上田市中心市街地に公共施設、商業施設、病院、高等学校などが多く立地しているほか、上田市域南部に位置する丸子地域中心部にもまとまった市街地があり、公共施設等が立地しています。
- 主な観光地としては、別所温泉、鹿教湯温泉、田沢温泉など温泉資源が豊富なほか、菅平高原、湯の丸高原、美ヶ原高原などの高原エリアもあり、首都圏などから多くの観光客が訪れています。

### 2-2 地域公共交通の概況

- 北陸新幹線が地域の南東から北西に向けて走っており、首都圏と北陸地域を結んでいます。上田駅から東京駅までは最短で80分程度とアクセスが良好です。
- 新幹線の並行在来線として第三セクターのしなの鉄道が運行しており、軽井沢駅から篠ノ井駅間を結んでいます。篠ノ井駅でJR信越本線、JR篠ノ井線に接続しています。また、上田駅からは上田電鉄別所線が別所温泉駅まで運行しています。
- 路線バスについては、地域間幹線系統として千曲バスの青木線、鹿教湯線の2路線、上田バスの真田線、真田自治センター入り口線、菅平高原線の3路線、計5路線が運行されており、これは長野地域に次ぐ規模となっています。
- その他に、市町村界を跨ぐ路線として、事業者運営の路線バスが4本、市町村が運営に関与するコミュニティ路線が2路線あります。
- 地域独自の施策として運賃低減制度が導入されており、多くの事業者路線で運用されています。利用者負担額に上限を設け、制度を導入している上田市・青木村と事業者が、従来運賃との差額分を応分負担する仕組みで、バス路線の維持、利用促進等に効果をあげています。
- 定時定路線バスと並んで、各市町村ではデマンド交通により地域住民の移動を確保する取組も進んでいます。

### 2-3 地域公共交通の課題

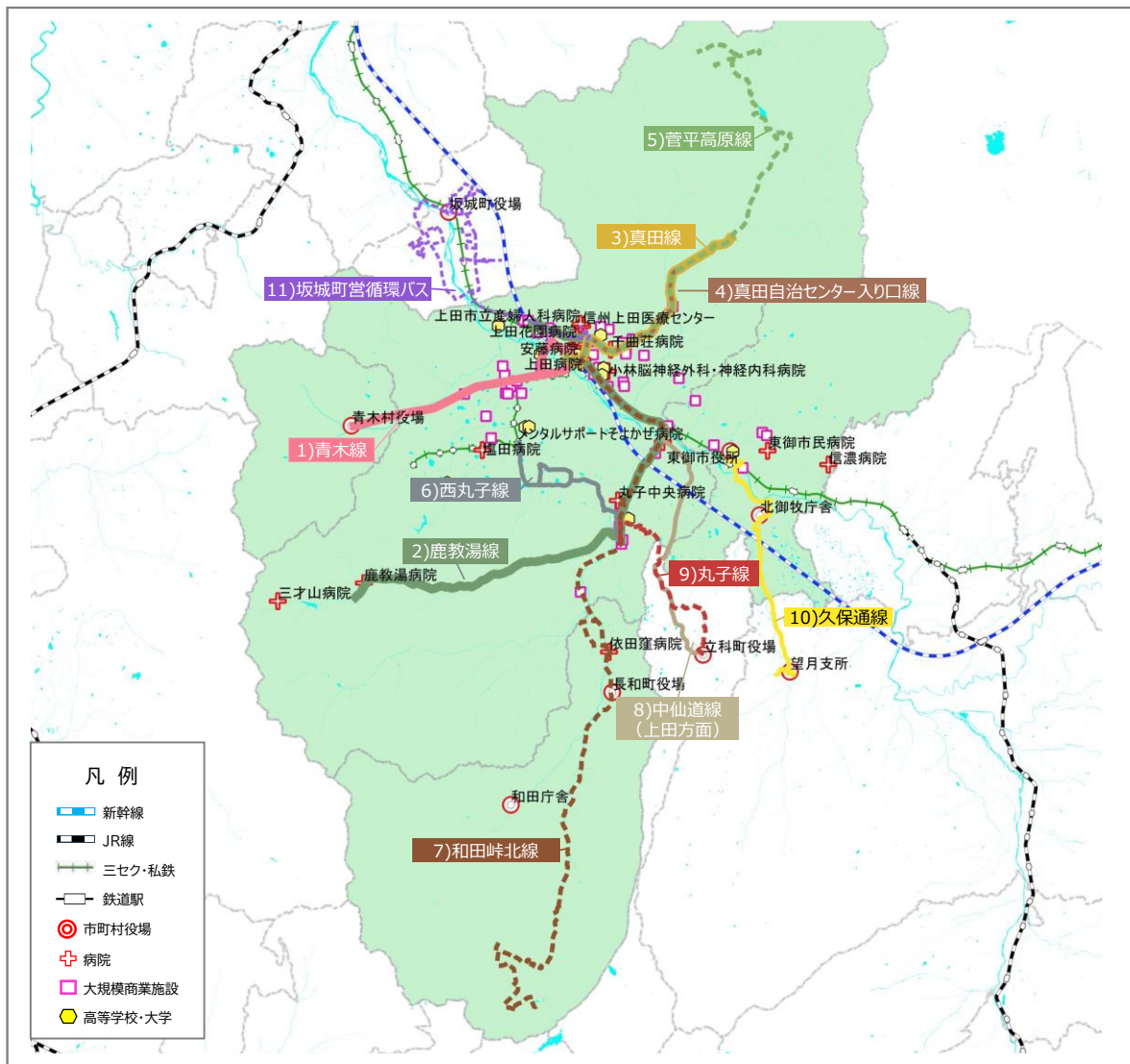
- 地域の日常生活においては、上田市中心市街地へのアクセス、あるいはしなの鉄道の各駅への接続が担保されていることが非常に重要となります。これにより、佐久・小諸方面や長野方面など地域外への移動にも対応できます。
- 上田地域内の各地域から上田市中心市街地あるいはしなの鉄道各駅へのアクセスは、上田電鉄及びバス事業者による路線バスにより概ね確保されていますが、地域間幹線系統のバス路線と比較すると、長和町から上田市中心市街地を結ぶ和田峠北線（長久保線）は運行本数が少ない状況です。
- 上田市中心市街地から圏域の南部方面に運行するバス路線の多くが、上田市の丸子地域を経由していることから、丸子地域にターミナル的な機能を持たせることで、ネットワークとしての効率性が高まることも考えられます。
- 主要観光地へのアクセスについては、別所温泉、鹿教湯温泉、菅平高原などは鉄道や路線バスで確保されていますが、地域内には二次交通によるアクセスに課題のある観光地もみられます。
- バス路線を今後も安定的に維持するため、地域間幹線系統補助を活用したいものの、現状では補助要件を満たすのに課題のある路線もみられます。
- 運賃低減制度については、導入後一定の期間が経過し、利用促進に対する有効性や、利用者負担のあり方などの課題が生じているため、運賃低減の方法や対象を含めた制度の見直しについて検討することが必要となっています。

最終調整必要

## 市町村界を跨ぐバス路線の状況

令和5年10月1日現在  
 (データの年次は令和4年度のもの。ただし地域間幹線系統の国庫補助額は令和6年度申請のもの)

No.	路線種別	運行事業者 (委託先)	路線名	路線 距離 (km)	運行便数 (往復数)	利用者数 (輸送人員)	収支率	国庫申請額 (千円)
1	事業者路線 (地域間幹線系統)	千曲バス	青木線	16.4	11.2	144,376	36.4%	14256.5
			鹿教湯線	17.8	8.2	143,681	43.7%	11188.0
		上田バス	真田線	12.2	6.5	27,866	21.1%	1953.0
			真田自治センター入り口線	10.5	8.3	35,058	25.9%	10216.5
			菅平高原線	29.8	7.4	81,703	29.3%	17974.0
6	事業者路線	上田バス	西丸子線	9.3	4.8			
7	事業者路線 (その他一般路線)	JRバス関東	和田峠北線(長久保線)	46.4	5.0			
8		東信観光バス	中仙道線(上田方面)	13.4	8.8			
9		東信観光バス	丸子線	12.7	4.7			
10	コミュニティ路線	東信観光バス	久保通線	14.8	4.0			
11	(廃止代替含む)	信州観光バス	坂城町営循環バス	20.6	12.0			



## 2-4 地域公共交通の将来ネットワーク

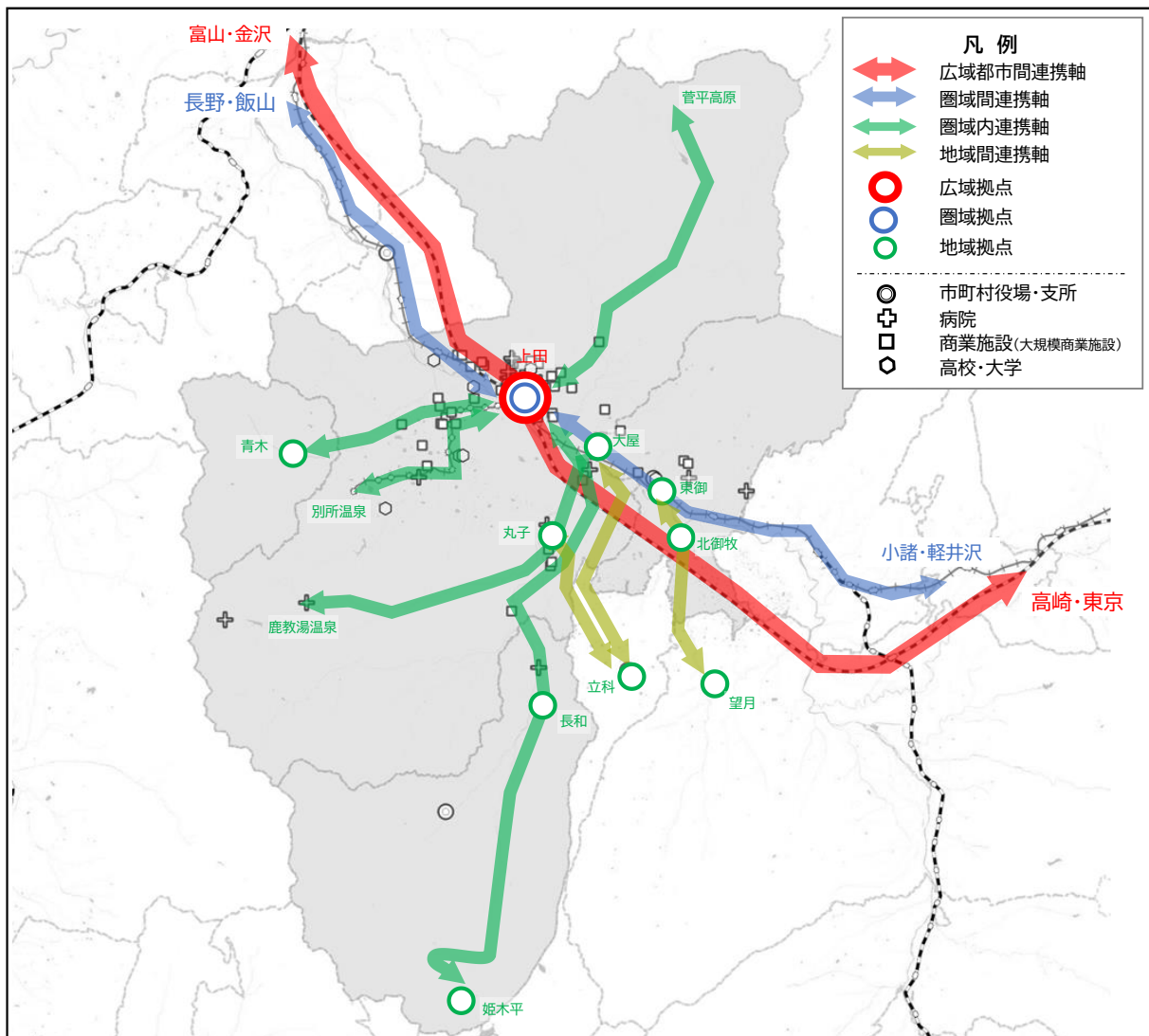
### A 【広域都市間連携軸】

首都圏と北陸圏を結ぶ大きな動線である北陸新幹線を広域都市間連携軸として位置づけます。北陸新幹線は2024年に福井県敦賀市まで延伸する予定で、将来的には近畿圏まで接続することが見込まれています。

上田駅周辺を広域拠点と位置づけ、首都圏、北陸圏どちらからも良好なアクセスを活かした拠点づくりについて、具体的な方策を検討していくものとします。

### B 【圏域間連携軸】

北陸新幹線の並行在来線として走るしなの鉄道は地域住民の日常移動を支える重要な路線であり、圏域間連携軸として位置づけます。路線の維持を図るため、運行事業者が沿線市町とも連携し、路線の活性化、利用促進に取り組んでいくものとします。



### C【圏域内連携軸】

圏域内連携軸として、鉄道については上田電鉄別所線を位置づけます。同路線は地域内の主要な観光地でもある別所温泉を結ぶ軸となるだけでなく、沿線住民の日常移動を支える重要な路線となっています。その維持を図るため、運行事業者や別所線活性化協議会とも連携し、路線の活性化、利用促進に取り組んでいくものとします。バス路線については既存の地域間幹線系統に合わせるかたちで、千曲バスの青木線と鹿教湯線、上田バスの真田線、真田自治センター入り口線及び菅平高原線を位置づけ、国・県の地域間幹線系統補助を活用し、路線維持を図ります。これに加えて、上田駅から長和町を経て和田峠方面を結ぶバス路線である和田峠北線（長久保線）を圏域内連携軸と位置づけ、（必要に応じて）国・県の地域間幹線系統補助の活用についても検討を進めます。

### D【地域間連携軸】

地域間連携軸としては、上田地域と佐久地域を結ぶ中仙道線（上田方面）、丸子線、久保通線の3路線を位置づけます。地域間連携軸の整備にあたっては、地域拠点として丸子市街地のターミナル機能を高めていくことなども効果的と考えられます。

## 拠点と軸の設定

区分	名称	位置づけ	具体的な路線・拠点	
拠点	広域拠点	・三大都市圏などと接続する県の玄関口	上田市	・上田（駅・市役所周辺）
	圏域拠点	・圏域の中心地	上田市	・上田（駅・市役所周辺）
	地域拠点	・各市町村内における交通結節点、目的先施設	上田市	・丸子（地域自治センター周辺） ・大屋（大屋駅周辺）
			東御市	・東御（田中駅・市役所周辺） ・北御牧（北御牧庁舎周辺）
			長和町	・長和（町役場周辺）
青木村	・青木（村役場周辺）			
軸	広域都市間連携軸	・三大都市圏などに連絡する軸	鉄道	・北陸新幹線〔JR東日本〕
	圏域間連携軸	・隣接県や県内の他圏域と連絡する軸	鉄道	・しなの鉄道〔しなの鉄道〕
	圏域内連携軸	・市町村間の移動を支え圏域拠点を結ぶ軸	鉄道	・別所線〔上田電鉄〕
			バス	・青木線★〔千曲バス〕 ・鹿教湯線★〔千曲バス〕 ・真田線★〔上田バス〕 ・真田自治センター入り口線★〔上田バス〕 ・菅平高原線★〔上田バス〕 ・和田峠北線☆〔JRバス関東〕
地域間連携軸	・地域拠点間を結ぶ軸	バス	・丸子線〔東信観光バス〕 ・中仙道線（上田方面）〔東信観光バス〕 ・久保通線〔東信観光バス〕	

★＝国・県の地域間幹線系統補助対象路線

☆＝国・県の地域間幹線系統補助の対象となる可能性がある路線